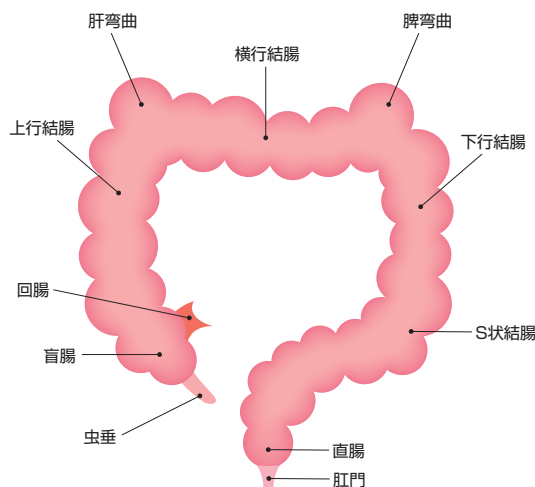


大腸検査を受診された方へ

大腸検査に関する用語について、以下で説明させていただきます。



大腸ポリープ

大腸ポリープとは、大腸の壁の一部が内側に向かっていぼのような形に盛り上がっている状態のことです。40歳以降の方に多くみられ、S状結腸と直腸に発生しやすいといわれています。ポリープの大きさは数mmの小さなものから数cmまで大きさは人によって異なります。主な原因は、加齢と食生活などの生活習慣です。特に肉や糖分の取りすぎ、食物繊維不足は大腸ポリープの発症リスクになるといわれています。大腸ポリープにはさまざまな種類があり一部には大きくなってがん化するものもありますので、定期的な内視鏡検査をおすすめします。

大腸がん

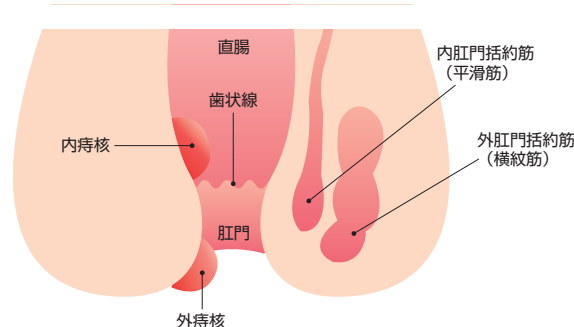
大腸がんは、大腸（結腸・直腸）に発生するがんで、腺腫という良性のポリープががん化して発生するものと、正常な粘膜から直接発生するものがあります。日本人ではS状結腸と直腸にがんがでやすいといわれています。初期段階では自覚症状がほとんどなく、進行すると血便や便秘、下痢などが見られます。ポリープの段階で早期発見と除去することはがんの予防になるため、定期的な内視鏡検査をおすすめします。

大腸憩室（症）

腸管の内壁の一部が、袋のようになって外に飛び出したものを憩室といい、内視鏡検査ではくぼみのように見えます。年齢が上がると共に大腸憩室症の方は増えていって、10人に1人くらいの割合でこの症状の方がいます。食物繊維の摂取量に関係しているとされています。憩室自体は良性の所見ですが、くぼみに糞便が溜まったまま長時間が経つと内部で細菌が増殖し、憩室に炎症が生じることがあります。これを憩室炎といい、腹痛や発熱、また下痢症状などをきたすことがあります。便秘にならないように食物繊維を積極的に摂取し体を動かすように努めましょう。

痔核

痔核とは俗にイボ痔とよばれ、最も多く見られる痔疾患の代表であり、皮膚と直腸の境目（歯状線）の皮膚側にできるものを外痔核、内側の粘膜にできるものを内痔核といいます。便が硬かったり排便時に力むと悪化しやすいので食生活上の注意が必要です。出血や痛みが強い場合は肛門外科でご相談ください。



肛門ポリープ

皮膚と直腸の境目（歯状線）に位置する肛門乳頭が、排便時に刺激を受けて肥大化して大きく伸びて脱出した病態です。慢性的な下痢や便秘による炎症、切れ痔に伴って発生することが多く、イボのような突起物ですが、いぼ痔ではありません。肛門ポリープは腫瘍性の大腸（直腸）ポリープとは異なりがん化することはありませんが、便通障害や痛みを伴う場合は肛門外科でご相談ください。

クローン病

炎症性腸疾患のひとつで、主に小腸や大腸などの消化器官に炎症が起きることにより、びらんや潰瘍が起きる原因不明の慢性の病気で、厚生労働省から難病の指定を受けています。10代後半から20代に発生することが多く、2：1で男性の患者数が多い病気です。適切な治療をして症状を抑えることができれば健康な人と変わらない日常生活を続けることができます。

潰瘍性大腸炎

クローン病と並ぶ炎症性腸疾患の代表的疾患で、厚生労働省から難病の指定を受けています。20代から30代に発生することが多く、クローン病と違って男女差はありません。適切な治療をして症状を抑えることができれば健康な人と変わらない日常生活を続けることができます。



医療法人社団 同友会

Copyright2025 同友会グループ All Right Reserved.